

つながりを大切にし、

かかわりを深める児童生徒の育成



ユネスコスクール便り

No.120

令和4年12月19日

大牟田市Iネットスクール
担当者通信

第2回防災・減災教育研修会が開催されました



11月25日(金)に、みなと小学校において第2回防災・減災教育研修会が開催されました。2回目となる今回は、みなと小学校5年担任の石橋剛志先生と須本実梨先生が授業を提案され、発達段階に応じて児童生徒に身に付けさせるべき資質・能力や、授業の在り方について協議が行われました。

みなと小学校では系統的に、5年生では「自助」、6年生では「共助」についてのカリキュラムが構成されており、今回5年生では、想定された具体的



自分たちが考えた防災バッグの中身について説明する児童

な場面を基に防災バッグに準備しておくべきものを話し合うことをとおして、「命や安全を守ることを第一に考えるべき」と児童が捉えることをねらいとした授業が展開されました。

授業後の協議会では、中学校区ごとにグループに分かれ、



オンライン付箋紙機能を用いた協議会の様子

オンライン付箋紙機能を用いた協議が行われました。各グループとも熱心な協議が展開され、「自助」の捉え方から具体的な学習道具、展開方法に至るまで、あらゆる視点から質問や意見が出されました。みなと小学校の先生方の入念な授業準備や練られた授業展開があったからこそ、内容の濃い協議とすることができました。

みなと小学校の先生方、ありがとうございました。
協議後は、奈良教育大学 ESD・SDGs センターの及川幸彦先生から、指導助言を頂きました。及川先生からは、子どもにとって課題解決の目的が明確となった、ストーリー性のある単元構成の良さや、具体的な場面を想定した上で自分の考えをつくり、友だちと協議する授業展開の良さについて講評を頂きました。また、ESDである限りは行動化を目指していくべきことや、小・中学校が連携した防災・減災教育に取り組む必要性について、今後の期待としてご助言頂きました。

令和2年7月豪雨を契機に、防災・減災教育に取り組む学校が増えてきています。突然訪れる、いざという時のために、児童生徒も地域も、そして私たち職員も、正しく備え、必要な準備をしておかなければならないと感じました。



減災・防災教育の重要性について説く及川先生